



様々な調査を行い、より良い行政へ

調査テーマも調査相手も様々です

全国の管区行政評価局では、国の政策や業務について各地域における政策効果や業務運営の実態の調査を担当しているほか、各地域の行政上の問題についても独自にテーマを企画し、調査した結果を踏まえて改善を図っています(詳しい説明は、業務案内のパンフレットをご覧ください)。

ところで、皆さん、行政評価局は、行政機関だけを相手に調査をしていると思いませんか?決してそうではありません。私は、この1年間で、産学官連携による地域活性化、伝統工芸の地域資源としての活用、要保護児童の社会的養護といったテーマを担当し、都道府県や市町村のほか、大学や民間企業(個人事業主)にも調査を行いました。実地調査では、調査を通じて様々な人(自治体の担当者、大学教授、社長など)に出会い、実際に生の声を聞いていくのです。

中国四国管区行政評価局
評価監視部
室伏 一樹 平成21年入省
MUROFUSHI KAZUKI

様々な人との出会いをより良い行政へ

こうして様々な人と出会い、生の声を聞ける、議論ができるというのが、実地調査の強みであり、そこがこの仕事の面白さでもあります。

「行政の改善」や「より良い行政」というと、調査相手のアラ探しをしているイメージを持つ方もいるかもしれませんが、調査では、単に問題を指摘するだけではなく、問題が生じている原因・理由が何かを掘り下げることも重要です。問題が生じているのに、解消されない(できない)原因・理由は何か。相手(担当者)は、どのような点で苦労したり、困っているのか。生の声を聞き、私たちも考え、相手と議論しながら、どのような改善策が必要・有効なのかを探っていくのが私たちの仕事なのです。

さあ、一つの分野にとどまらず、様々なテーマや人と出会えるこの仕事に少しでも興味を持った方、ぜひ総務省へ!



人と出会い、学び、成長する

国民の声を聴き、より良い行政に

私は現在、国民の皆様から国の行政に関する苦情や意見・要望等の相談を受け、行政の制度や運営の改善に活かす行政相談に携わっています。

また、相談所の開設等で国民の皆様からの相談を受け、その声を行政に届ける、国民と行政をつなぐ架け橋として、全国の市区町村でボランティアとして活躍する行政相談委員(約5,000人)の方々や地域で充実した活動ができるよう、受付けた相談に関する現地調査や地域のイベントでの広報活動などのサポートをしています。

行政相談を通じて、国の行政に関する国民の皆様の声を実感し受け止め、全国各地からの声を制度や政策の企画・立案の場に届けることで暮らしを良くしていくことにつなげる。それが今の私の仕事です。



石川行政評価事務所
行政相談課委員係長
西村 杏奈 平成28年入省
NISHIMURA ANNA



地域や世界で活躍する人と共に

私は総務省で多様なフィールドで活躍する様々な人と出会うことができました。現在は管区行政評価局で行政相談委員や地域の方々、本省行政評価局では行政の現場の実情を肌で感じながら上司や他省庁の職員と深く議論する機会を得ました。

また、国際交流事業に携わりASEANと日本の若者達の活発な交流を間近で見聞きし、国際統計関係業務で世界各国の政府職員が最先端の統計業務を学ぶ姿を目にしました。これまで出会ってきた方々の年齢や国籍、得てきた人生経験は様々ですが、共通して感じたのは「自分の国を、未来を真剣に考える」というひたむきな姿勢です。総務省では、そんな熱い思いを持って生きる地域や世界の方々に応援し、そこから学び、自分自身を成長させることができます。ぜひ一度足を運んでみませんか。

今も昔も変わらぬもの

最前衛に立つ気概

総合通信局は、法令の執行や本省で企画・立案した施策を実施するいわば最前衛です。私が所属する電気通信事業課の業務を一部紹介すると、新たに創設された通信サービスの販売代理店の事前届出制度に関し、周知のための説明会の開催、届出にかかる事前相談や実際に届けられた書類の受理手続きなど制度の円滑な導入や運営に取り組んでいるほか、ネットリテラシーの醸成のため関係団体と協力し生徒・保護者等向けの普及啓発ガイダンスに講師として管内の学校に派遣されることなどが挙げられます。

これらは当課の業務の一端に過ぎませんが、どのような業務であっても、施策の効果が企業や利用者の反応を通して日々ダイレクトに感じられる点が総合通信局職員にとっての醍醐味のひとつと言えるのではないのでしょうか。



関東総合通信局情報通信部
電気通信事業課長
山下 俊浩 平成12年入省
YAMASHITA TOSHIHIRO



今も昔も変わらぬ通信への思い

「令和元年 房総半島台風」は通信サービスに甚大な被害をもたらしました。私は被害状況の確認や復旧に向けた取組みに際し関係機関との連絡調整のため自治体に派遣されました。現地でも今更ながら気づかされたのは、通信が企業活動や国民生活にとって電気・ガス・水道と並ぶ欠くべからざるライフラインであったということ。

通信サービスの形態は近年急速に多様化・複雑化していますが、太古の狼煙に代表されるように隔地に意思を伝達したいという人類の欲求、いわば通信の本質はいささかも変化してないと感じています。

日進月歩の情報通信の分野に行政の立場で携わる職員にとって仕事のやりがいを感じる場面は人それぞれでしょうが、「変わらぬ通信の本質」と「確実につながること」は、入省約20年たった私にとって、追求すべき普遍的なテーマです。



近畿総合通信局情報通信部
電気通信事業課
鳥本 宗一郎 平成25年入省
TORIMOTO SOICHIRO

情報通信のダイバーシティ

ICTの最前線

現在、固定電話、携帯電話や最近話題の5Gなど情報通信分野では多種多様なサービスが存在しています。私が所属する電気通信事業課では、こうした電気通信役務といわれるサービスを提供する企業等から申請等を提出いただき、電気通信事業者の届出や登録の手続きを行っています。

皆さんは、単に電気通信事業者といってもどういったサービスが電気通信事業に該当するのか想像するのは難しいのではないのでしょうか。ICTは常に進歩しており、日々新しいサービスが誕生しています。これまでにない新しいサービスが明日には生まれることもあり得ます。

そうした電気通信事業者の申請等に関する手続きを担う地方支分部局は、まさにICTの最前線とも言える現場です。日々試されるような思いで向き合っていますが、成長を実感できるやりがいのある職場です。

求む、多様性!

この文章を読んでいただいているあなたは、総務省を就職先として考えるにあたりどのような不安がありますか。文系学部出身だ、ICTに詳しくないなどといったものではないでしょうか。そうした不安は全くありません。

「くらしの中に総務省」これは総務省のキャッチフレーズです。この言葉が表すとおり、総務省の仕事は情報通信分野だけでも電話、インターネット、TVや郵便など国民生活に密着した多種多様な分野に広がっています。こうした仕事に対応するため、職員にも多様性が求められます。私自身、法学部出身でICTに詳しくなく、採用時の年齢は30歳近くでした。知識は後からついてきます。もちろん研修もあります。私たちは多種多様な経験や考え方をもちの方を待っています。とにかく意欲のある方、ぜひ一緒に働きましょう!

